

# 公 民

## 現 代 社 会

### 第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

#### 1 前 文

令和4年度（第2回）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）が実施された。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

#### 2 内 容・範 囲

生徒が主体となって学習を進める出題方法をとおして、「現代社会」という科目の性格を意識した切り口を示したことは評価できる。

文章や資料を読み取り、理解する技能を必要とする問題が数多く出題されていた。小問ごとに生徒のレポートやメモ、独自のマトリックスや説明文、グラフや図など、さまざまな資料を提示することで、一方で具体的事象を抽象化させて考察させたり、他方で抽象的な概念を具体的事象にあてはめて考察させたりする出題の工夫が見られた。単に教科書で習う概念を記憶するだけでなく、社会の諸課題や時事的な事象に高く広くアンテナを立て、それらの課題に対して、学習した内容を特定の分野・領域に偏ることなくさまざまな角度から関連づけて考察する必要があるという出題者からのメッセージが感じられる。

全体を通して、良問が多い内容で、内容や範囲での偏りはなく、学習指導要領に定める範囲で出題されている。

第1問 大学生が大学で学んでいることについて、出身高校において「争い事の解決～国際社会の場合～」というタイトルで講演を行ったという場面設定のもとで、幅広い知識の理解が求められた。また、提示された資料から情報を読み取り、思考力・判断力・表現力等を問う問題も見られた。

問1 欲求に関する知識を問う問題である。「フラストレーション・トレランス」という用語については、「欲求不満」か「欲求不満耐性」を区別することが必要となり、正誤判定としては多少紛らわしさを感じたのではないか。

問2 社会契約説について、人物やキーワードを手がかりにして、その著書や主張を特定する問題である。社会契約説についての理解を問う標準的な問題である。

問3 青年期の特徴について、ルソーの著書『エミール』に述べられている内容を問う問題である。難易度としては易しい。

問4 日本の思想家の著作の一部を抜粋した文章から、和辻哲郎と内村鑑三の著作を選択させる問題である。「間柄」、「二個のJ」というキーワードから人物を絞り込めるので、単純な知識を用いて正解を導くことができる。

問5 国際間の争い事がどのように解決されているかについての記述として、適当ではないものを選択させる問題である。国際法に関する知識を問う標準的な問題である。

- 問6 国際平和の維持について述べられたリード文を読み、その文中の空欄に当てはまる記述の組合せを選択する問題である。国際連盟と国際連合の違いについて、単に用語を憶えるのではなく、内容を理解していることが求められる問題である。
- 問7 人権の国際的保障についての疑問点や考察を記したメモを読み、その文中の空欄に当てはまる記述や語句の組合せを選択する問題である。語句の選択においては公民科目としての知識が問われ、記述の選択においては読取りの技能が問われた。複数の要素を含む出題となった分、受験者にとっては解きにくさを感じるのではないかと思われる。
- 問8 国際機構の表決方法に関する考え方を2つ提示し、4つの国際機構の表決方法はそれぞれどちらの考え方に当てはまるかの組合せを選択させる問題である。考え方の違いを理解することに加え、それぞれの国際機構についての個別の知識も必要となる良問である。
- 第2問 大学のオープンキャンパスで、憲法の模擬授業に参加したという場面設定のもとで、サンプルに知識を問う問題が比較的多く見られた。文章量の多い資料から必要な情報を読み取らせるなど、文章読解する技能が求められる問題も見られた。
- 問1 立憲主義や人権に関する宣言や文書の原文訳の一部を抜粋したカードと、その内容に合致した考え方の組合せを選択させる問題である。憲法上の権利についての基本的な知識を問う問題であり、難易度は易しい。
- 問2 基本的人権の内容の発展について、最も適当な記述を選択する問題である。センター試験によく見られた形式の問題である。
- 問3 生命工学に関する記述として、最も適当なものを選択する問題である。教科書での学習だけでなく、時事問題にも関心をもって学習することの重要性を感じさせる出題だが、iPS細胞がES細胞に比べ免疫拒絶反応が起きやすいとされるかどうかなど、公民科として問うべき内容か疑問に感じる部分があった。
- 問4 国会における立法手続きやそれに関わる組織について、最も適当な記述を選択する問題である。基本的な知識を問う問題であり、難易度は標準的である。
- 問5 裁判所の違憲審査に関する記述として正しいものを全て選び、その組合せを選択する問題である。具体的違憲審査制について、現代社会でどの程度扱うかによって正答率は変わってくる。また、正しいものを全て選ぶ形式のため、消去法が使えない分難易度は上がると思われる。
- 問6 違憲審査の実例として尊属殺重罰規定違憲判決について、会話文の内容から情報を読み取り、関連する判決の一部を抜粋したカードを選ばせる問題である。知識がなくても会話文に示された意図と一致するものと文章を読取る技能によって判断することで正解に至ることができる。
- 問7 情報公開法において保障されていると考えられる基本的人権についての理解を問う問題である。難易度としては易しい問題であるが、場面設定の説明を問題文に組み込んでいるために、問題文が長く、読みにくい。
- 第3問 高校生が「現代社会」の先生と放課後に話をし、農業や地球環境問題、比較生産費説、労働問題などについて基礎的・基本的な知識の理解や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題が出題された。全体的な難易度は標準である。
- 問1 「健康維持のために心掛けていること」の表の読み取り問題。性・年齢階級や世帯類型別の数値を見れば容易に解答できる。正答が「単身世帯」の回答率がすべての項目で最も低い、の選択肢という点は問題作成面で配慮が必要かもしれない。
- 問2 日本の農業と食の安全について、食品安全基本法や減反政策、米の関税化など、基礎的・

基本的な知識が問われた。

- 問3 地球温暖化など地球環境問題について、基礎的・基本的な知識が問われた。表の提示方法が新鮮である。
- 問4 1980年代の日米貿易摩擦に関連して、国際収支について基礎的・基本的な知識を基に思考力・判断力・表現力等が問われた。
- 問5 リカードの比較生産費説について、基礎的・基本的な知識を基に思考力・判断力・表現力等が問われた。従来のリカードの問題に比べ、条件を提示した上で受験生に考えさせるなど、問いかけに工夫が感じられる。良問である。
- 問6 日本の労働問題について、基礎的・基本的な知識が問われた。問いかけの文章が直接設問に生かされなかったことが残念である。
- 第4問 「世代間の公平」に関連して、年金と財政について基礎的・基本的な知識の理解や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題が出題された。全体的な難易度は標準である。
- 問1 日本の実質経済成長率と物価変動率の推移のグラフの読み取り問題。正答についてはグラフを読まなくても選択肢を読めば判断できるため、出題の工夫を求める。
- 問2 公的年金とその財源について基礎的・基本的な知識が問われた。新たな形式で、解答にやや手間がかかるが、良問である。
- 問3 財政赤字や累積債務問題について、基礎的・基本的な知識が問われた。
- 問4 国債発行の手続きについて、基礎的・基本的な知識を問う問題。ア、イのイのみ、X、YのYのみと、片方のみ解答させる点が新しい。
- 問5 若年層の積極的な政治参加の在り方について、基礎的・基本的な知識が問われた。憲法改正の国民投票、選挙運動、市議会への請願などが例として挙げられているが、選挙運動や請願などの年齢規定について受験者は迷ったのではないか。
- 第5問 「民主主義とは何か」について、複数の資料や会話文から思考力・判断力・表現力等を問う構成である。社会的課題の解決策の検討を通して、多面的・多角的に考察した過程や結果を、理由や根拠に基づいてまとめる力が問われる。この形式の問いに対応するには、資料読解や探究学習などを通して、正答を判断するための力を育成する学習が必要である。全体的に良問であり、難易度は標準である。
- 問1 アメリカの政治学者ダールの議論を基に、民主化の具体的な事例を考える問題。民主化の二つの理論的次元から、具体例を考察させる良問である。
- 問2 民主主義の政治体制について、選挙制度から考えさせる問題。民意の議席への反映を、小選挙区と比例選挙区における得票率と議席率の関係について、グラフを読み取ることから考察する力を問うものであり、良問である。誤誤が正答なのが残念と言える。
- 問3 民主主義の二類型の特徴の表と問題文及び説明文を読み取る技能や、それを基に各国の政治制度について思考力・判断力・表現力等を問う問題。議院内閣制や大統領制の内容を直接問うのではなく、多数決型やコンセンサス型で各国の政治制度を分類した点が新しい。レイプハルトの思想は教科書等で扱っておらず、多くの受験生にとって初見と考えられるが問4と連動する良問である。
- 問4 民主主義に関する探究学習のまとめを行うにあたり、様々な観点に則して整理する技能を問う問題。民主主義に関する制度や仕組み等を多面的・多角的に考察した過程や結果を、合意形成に向けて、根拠に基づきまとめる力が問われた。

### 3 分量・程度

大問5問、小問30問の構成で、本試験とも昨年度とも同じであった。センター試験と比べると大問数、小問数を減らし、読む資料を増やした昨年度の傾向を引き継いだ。問題冊子のページ数は40ページで、本試験の38ページを上回った。配点は、本試験とも昨年度と同じく3点または4点であった。なお、3点の小問が20題、4点が10題であり、第5問は、小問4題すべてが4点の配点であった。

知識を単純に問う問題に対して、複数の資料などの読み取りなどを通して、知識の活用し、思考力・判断力・表現力等を要する問題が本試験と同じく多く出題された。よく練られた問題が多く、知識を覚えるだけでは対応できないというメッセージが出題の仕方から伝わってきた。一方で、分量については負担が大きく解答時間に余裕はなかったと思われる。

本試験と同じく、第1問の分量が多く、難易度は標準であった。

### 4 表現・形式

高等学校の学習過程を意識した場面設定を行い、知識だけでなくそれを基に思考力・判断力・表現力等を発揮して考察する問題が出題された。

問いの形式については、30題中17題が4つの選択肢から正答を選択する問いであり、6つの選択肢は6題、6つの選択肢は6題、9つの選択肢は1題であった。可能性のある選択肢をすべて取り上げることが適当としても、設問の文章や資料の量に加え選択肢の数が多いため、受験者の負担は大きかったと予想される。選択肢で「すべて正しい」「正しいものはない」を設定することは、知識を問う問題では効果的だが、一方で技能や思考力・判断力・表現力等を測る問題については教育的配慮の面から望ましくないだろう。選択肢の設定についてさらなる改善と工夫をお願いしたい。

### 5 ま と め（総括的な評価）

全体的に良問が多く、現代社会の学習で身に付けるべき知識や技能、思考力・判断力・表現力等を問う問題が幅広く出題されており、しっかり学習してきた者とそうでない者で差が出やすい問題が多かった。

大問ごとに実際の学習活動を想定した場面設定の工夫が見られ、受験者にとっては、問題を解く際に、これまで自分が学習してきたことや学校等で活動してきたことを想起しやすくなっている。このような場面設定が提示された出題がなされることで、教員にとっても、生徒が主体的に学ぶ場面設定をより意識した授業が必要だという意識が高まるものと思われる。

資料を活用して思考力・判断力・表現力等を問う問題が出題されることで、普段の学習においても、多様な資料から情報を読み取って考察することの重要性が喚起されるので、今後も、思考する過程を重視した出題を期待したい。

一方、問題文や与えられた資料をしっかり読まないと解けない問題であることは必要だが、現代社会で科目として学習した知識がなくても、文章を読み取る技能があれば解ける問題も一部見られた。また、場面設定を問題文に入れ込んだために、問題文自体の文章量が多くなり、読みづらさを感じる問題も見られた。資料の読み取りが難しいのはよいとしても、問題文が読みづらくならないようにすることは必要ではないかと思う。